



Internet Initiative Japan

## PRESS RELEASE

2004年7月15日

株式会社インターネットイニシアティブ

### IIJ、ネットワーク型 RFID<sup>(\*)</sup>(無線 IC タグ)関連技術の国際標準化団体「EPCglobal」に加盟

株式会社インターネットイニシアティブ(以下 IIJ、本社:東京都千代田区、代表取締役社長:鈴木 幸一)は、ネットワーク型 RFID システム「Auto-ID<sup>(\*)</sup>」関連技術の国際標準化団体である「EPCglobal」に加盟しました。EPCglobal は米 Wal-Mart 等の国際的な大手流通業者や SI ベンダー、通信事業者等 191 社が参加する世界最大規模の標準化団体(2003 年設立)で、Auto-ID に関する国際標準化の他、RFID システムに記録する識別子である EPC<sup>(\*)</sup>の発行・管理を行うなど、Auto-ID の市場導入と実運用化を進めています。

IIJ は、従前から EPCglobal の前身である Auto-ID Center<sup>(\*)</sup>に技術者を派遣し、Auto-ID 普及のための研究・技術開発を先導してきました。2003 年には、大手アパレルメーカーが RFID を利用して行った実証実験に参画し、世界で初めて Auto-ID の規格に準じた ONS<sup>(\*)</sup>や EPCIS<sup>(\*)</sup>といったシステムを自社開発し、ネットワーク上に実装した例として、国内外で高い評価を得ております。今後 IIJ は、EPCglobal にて、これまで開発してきた Auto-ID 関連技術の標準仕様化を進めるほか、国際的な実証実験にも参加するなど、最新の技術開発とサービス化を進めてまいります。

今後、IIJ では「Auto-ID ソリューションサービス」の提供を開始する予定です。本サービスは、Auto-ID の基本システム(ONS や EPCIS など)をコンポーネント化し、実運用や実証実験で Auto-ID のシステム利用を希望するお客様が、手軽に RFID をご活用いただけるものです。正式サービス提供に先駆け、2004 年 7 月 28 日に IIJ 本社内に Auto-ID のデモルームを常設し、お客様向けデモンストレーションを行うと共に、お客様のニーズに対応したソリューションの提案を行ってまいります。「Auto-ID ソリューションサービス」の詳細は決定次第、別途アナウンスいたします。

<sup>(\*)</sup> RFID: 非接触固体認識技術。無線 IC タグ、IC チップなどとも呼ばれる。人やモノの識別・管理など、幅広く利用が検討されている。

<sup>(\*)</sup> Auto-ID: RFID の情報を、世界中に分散したタグリーダとデータベースで管理する仕組みの総称であり、技術標準化が進められている。バーコードの代わりに RFID を商品に添付することでグローバル SCM に利用したり、材料や部品に添付することで工場内の工程効率化を図るといった利用方法も検討されている。

<sup>(\*)</sup> EPC(Electric Product Code): RFID に記録されるコード体系のひとつ。世界中の商品等に、この RFID を取り付けることで商品管理・流通管理等に利用することができる。桁数が大きく個々の商品のシリアル番号まで記録することが可能。

<sup>(\*)</sup> Auto-ID Center: 現 Auto-ID ラボ。1999 年に米国ボストンのマサチューセッツ工科大学(MIT)に研究所を設置。英国ケンブリッジ大学や慶応義塾大学 SFC などにも姉妹研究所をもつ、非営利研究組織。様々な分野から研究者や技術者を集め、EPCglobal と連動しながら、Auto-ID に関する技術の開発を進めている。

<sup>(\*)</sup> ONS(Object Name Service): RFID に記録された EPC をもとに、その製品の情報が格納されているサーバの場所を探し出す技術。インターネット上の DNS に近い仕組み。

<sup>(\*)</sup> EPCIS(EPC Information Service): EPC と紐付けられた「モノ」に関する情報(使用や履歴など)を管理・提供するサービス。

### 【Auto-ID の特徴とメリット】

Auto-ID は、全ての物理的な「モノ」と、ネットワークに分散する「情報」を紐付けることで、TCO を削減したり、そのものの持つ価値を増大させる全く新しい技術です。

#### 遠隔、一括、自動処理

RFID に記録された情報を「遠隔、一括、自動」で読み取り/書き込みを行うことが可能で人手を介さないことから、バーコードの置き換えによる SCM の効率化だけでなく、生産管理の効率化やトレーサビリティ等、多くの使い方、可能性を秘めています。

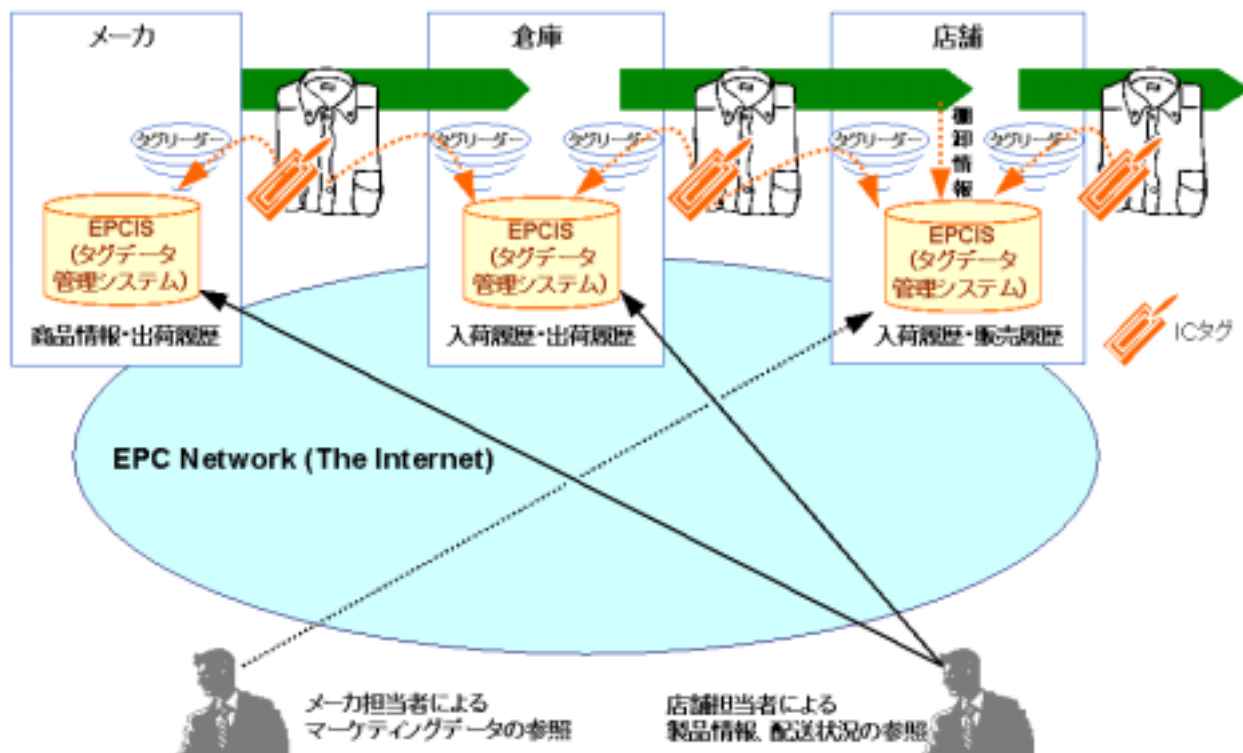
#### 情報量の増加

RFID で扱える情報量は非常に多く、RFID の添付されている製品の詳細情報や個別のシリアルナンバ、その製品の製造・物流履歴、さらには取扱注意事項などを管理することも可能となります。

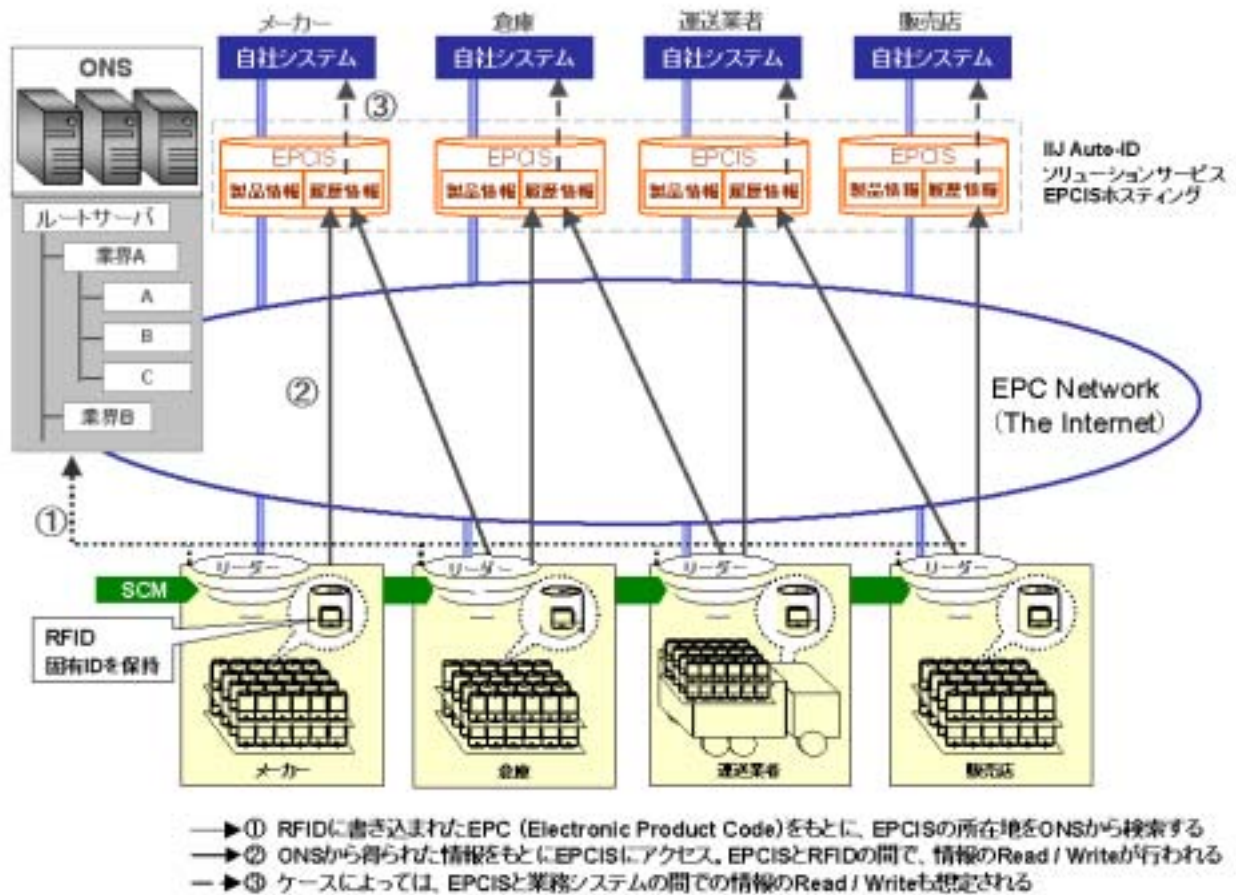
#### 相互参照・書き込み

Auto-ID ではネットワーク上に各プレイヤー(SCM ではメーカー、倉庫、運送業者、販売店など)が自社の EPCIS(タグデータ管理システム)を保持します。各社は自社の業務で RFID の情報を利用するほか、ネットワークを介して、必要な情報を他社の EPCIS から取得します。メーカーが自社製品の輸送状況をリアルタイムに把握したり、販売店が製品の詳細な原材料を確認したりするなど、柔軟な連携、協調関係が実現可能です。

### Auto-ID イメージ図



「Auto-ID ソリューションサービス」提供イメージ図



報道関係問合せ先

株式会社インターネットイニシアティブ 広報室 池田、手島

TEL: 03-5259-6310 FAX: 03-5259-6311

E-mail: [press@ij.ad.jp](mailto:press@ij.ad.jp) URL: <http://www.ij.ad.jp/>

営業関係問合せ先

株式会社インターネットイニシアティブ IIJ インフォメーションセンター

TEL: 03-5205-4466 FAX: 03-5205-4460

E-mail: [info@ij.ad.jp](mailto:info@ij.ad.jp)